

山添村小屋プロジェクト



ヤマラボ ~山添村ローカルベンチャーラボ~

■地域の資源を活かしたモデルプラン作成の研究所

名城大学生が実際に奈良県の奥和地域にある山添村を訪れ、現地の方々と交流し地域の隠れた資源を見つけ、同時に地域が抱える課題を知り、参加者自身で持続可能な地域を創っていくためのモデルプランを考えていく。

2022.6

~山添村に眠っている素敵な資源をいかし、村で活動している方々~

- 茶の実オイル研究所
伸びはてた茶の木に実る無用とされていた茶の実を資源として活用している。
- KEHARA HAUSE
古民家を改修し、田舎体験ができる宿泊施設を2年前にオープン。たくさんの地域のことを教えてくれる。
- 観光ボランティアガイドの会
観光ボランティアガイドとして、日々山添村の魅力を伝えている。その知識は歴史、自然、文化まで幅広い。
- まわり。(山添村お土産開発部会)
山添村にはコレといったお土産がない。2017年、ないなら私たちが作ろう!始まった。奈良県の宝物グランプリ2021-2022にて、スイーツ部門グランプリを受賞し全国大会へ。
- この村に素敵な活動をされている人がたくさんいる。
村の方々と気軽に交われる場、活動が見える場があるといい。

2022.8

室内の荷物出し、壁の解体



2022.9

壁、床の解体



2022.10

室内塗装



2022.11

室内塗装、裏庭掃除



2022.12

室内塗装



現役で活躍する大工さんから、住宅建築について丁寧な解説をしていただきながら、解体作業。大学では実際に体験する機会はなかなかないので、学生にとってとても貴重な経験である。



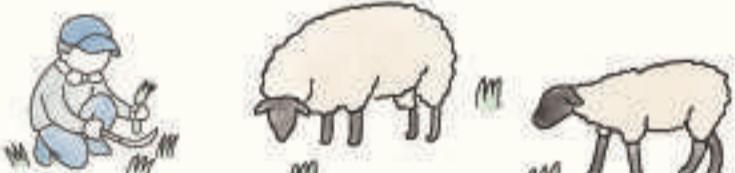
壁の塗装は一見簡単そうに見えるが、綺麗に塗るのはなかなか難しい。

一人の力だと何ヶ月もかかるてしまうような作業も、リノベイベントで多くの参加者が集うことにより、一気に出来上がっていく。



「おいでよ、羊がいる畑へ！」

羊小屋・柵づくりプロジェクト



働きやすい環境構築として自然が豊かな田舎の環境、体を動かす農作業、そして羊と共に草刈りしながら働く場をつくり課題解決に取り組む。人の緊張や不安などは動物がいることで緩和される効果がある。

羊の貸し出し

山添村の観光施設「ひつじの公園 めえめえ牧場」が除草を目的に羊を貸し出すサービスをしている。

原点は村の景観を損なうことになる耕作放棄地の雑草対策。

せっかく牧場があるのでから羊に食べさせることで解決できないかと考えた。

村では高齢化などで耕作放棄地の除草に十分手が回らない状態である。

また、牧場に生える草だけでは餌が足りず、別に乾草を購入していることもあり、貸し出せば餌代の節約にもなる。

除草は景観だけでなく、農作物をイノシシから守るために必要である。草むらが隣接していると、それがイノシシにとって日陰となり、招きやすくなるという。

また、耕作地は傾斜地になっていることが多く、人による除草は大変だが、羊は平気である。

貸し出しは草が生える春から秋にかけて。2匹を1組として1ヶ月単位で貸し出す。これで耕作地の規模の目安となる一反（約1000 m²）の除草ができる。

小屋・柵の設計

構造は丈夫で長持ち、かつみんなで組み立てあげることができるよう、単管で組み立てる。



小屋の壁材と柵に用いる木材は母屋を解体した時に出てきた古材を再利用する。村に残る資源を活かす。

2022.3~5 羊小屋の設計、打ち合わせ
材料の買い出し

模型をつくることとは違う
実際につくるということの難しさを実感。

他大学の学生と先生と共に
単管の組み立て

2023.6 第3回

大きさも形もバラバラな古材を
上手く組み合わせることの難しさ。
古材の再利用の大変さ。

2023.7 第4回

今年度のヤマラボ参加学生と
ともに作業。初めての経験を
する学生が多く、たくさんの
学びを与えることができた。

2023.7 第5回

柵の施工開始。
4m程ある細長い木材そのままを活かす作り方に。

2023.8 第7回
羊小屋・柵完成！

たくさん的人が参加して、
関わり、協力していただけた
おかげで、完成すること
ができた。

これからの展望

～羊の貸し出しとともに～

村の内外へ、羊をお迎えするために必要な、羊の小屋と柵の設計、施行を学生を中心に行う。山添村の地域、村の方々と交流するきっかけになり、山添村の若者の関係人口を増やす。学生にとっては、ここしか得ることのできない大きな学びをすることができる。

このプロジェクトを維持、継続するために羊のための小屋だけではなく、他用途の小屋も山添村につくれていけたらいいと考える。この村の家々はとても大きく立派な家が多い。

また、家同士も離れていることが多く、歩いて移動するよりも、車移動が一般的である。

そのため地域の人同士の交流も、フラッと気軽のものになりにくいと思う。

そこで小さなみんなの小屋が村にいくつもできることで、小屋をつくる段階でも完成した後でも、コミュニティの生まれる居場所になる。



製作する様子を見て、お声掛けをしていただいたら、
差し入れを下された地域の方々にも、感謝の気持ちでいっぱいである。

代表者：大嶋唯花

Mail : yuika12.oo607@gmail.com

敷地：奈良県山添村

奈良県の北東端に位置する山添村は、大和高原と呼ばれる地域の一角で、東部は三重県伊賀市及び名張市、北部及び西部は奈良市、南部は宇陀市に隣接している。起伏とゆるやかな傾斜地が多い隆起平原となっている。

大阪圏から約1時間、名古屋圏からも1時間半程度と、都市部から気軽に訪れることができる、ちょうどいい「イナカ」である。



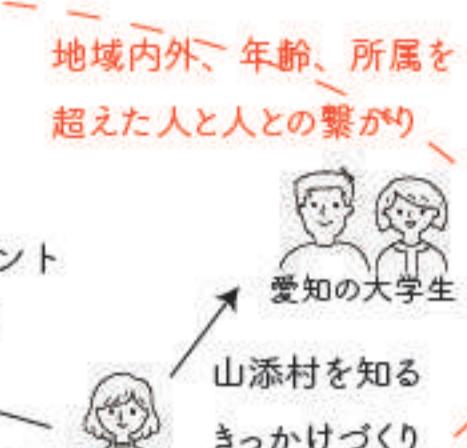
地域課題

年々人口が減少しているとともに、若年者人口も減少している。

過疎化の主な要因としては、基幹産業である第一次産業の低迷、雇用に大きく結びつく地場産業が少なく、都市との生活基盤の格差がもたらす若年世代の人口流出に歯止めがかかることが大きな要因といえる。社会動態における若年世代の流出は、自然動態でも若年人口の減少を拡大することとなり、過疎化が高齢化を招く悪循環に陥っている。

mou house リノベーションイベント

山添村にある築100年の古民家、名前は「mou house」ムーハウス。10代20代の居場所づくり、若者の働く場づくり、女性のコミュニティ支援を行うことを目指して現在拠点となる古民家で、家づくりから行っている。毎月第3土曜日に古民家を改修するリノベーションイベントを行っている。



私の考えたプロジェクト「居場所づくりのお手伝い」

場づくりというのは、場ができるからうまれるのではなく、改修をしたりみんなでつくる段階でも、人との交流のうまれる場、一人じゃできないことや興味のあること、新しいことに挑戦をする場、学ぶ場になることを体感した。そこで、まずは新しい居場所をつくろうとしている鈴木さんの古民家リノベーションイベントに参加することで、ハードとしての場をつくるとともに、地域の方と学生が交わる場づくりを実践する。

2022.8

室内の荷物出し、壁の解体



2022.9

壁、床の解体



2022.10

室内塗装



2022.11

室内塗装、裏庭掃除



2022.12

室内塗装



現役で活躍する大工さんから、住宅建築について丁寧な解説をしていただきながら、解体作業。大学では実際に体験する機会はなかなかないので、学生にとってとても貴重な経験である。



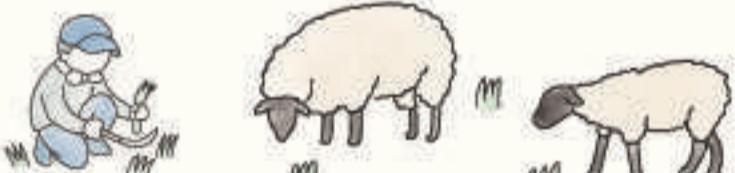
壁の塗装は一見簡単そうに見えるが、綺麗に塗るのはなかなか難しい。

一人の力だと何ヶ月もかかるてしまうような作業も、リノベイベントで多くの参加者が集うことにより、一気に出来上がっていく。



「おいでよ、羊がいる畠へ！」

羊小屋・柵づくりプロジェクト



働きやすい環境構築として自然が豊かな田舎の環境、体を動かす農作業、そして羊と共に草刈りしながら働く場をつくり課題解決に取り組む。人の緊張や不安などは動物がいることで緩和される効果がある。

羊の貸し出し

山添村の観光施設「ひつじの公園 めえめえ牧場」が除草を目的に羊を貸し出すサービスをしている。

原点は村の景観を損なうことになる耕作放棄地の雑草対策。

せっかく牧場があるのでから羊に食べさせることで解決できないかと考えた。

村では高齢化などで耕作放棄地の除草に十分手が回らない状態である。

また、牧場に生える草だけでは餌が足りず、別に乾草を購入していることもあり、貸し出せば餌代の節約にもなる。

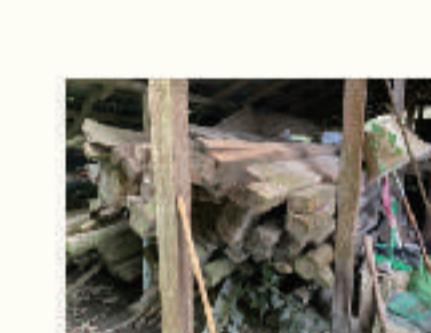
除草は景観だけでなく、農作物をイノシシから守るために必要である。草むらが隣接していると、それがイノシシにとって日陰となり、招きやすくなるという。

また、耕作地は傾斜地になっていることが多く、人による除草は大変だが、羊は平気である。

貸し出しは草が生える春から秋にかけて。2匹を1組として1ヶ月単位で貸し出す。これで耕作地の規模の目安となる一反（約1000 m²）の除草ができる。

小屋・柵の設計

構造は丈夫で長持ち、かつみんなで組み立てあげることができるように、単管で組み立てる。



小屋の壁材と柵に用いる木材は母屋を解体した時に出てきた古材を再利用する。村に残る資源を活かす。

2022.3~5 羊小屋の設計、打ち合わせ
材料の買い出し

模型をつくることとは違う
実際につくるということの難しさを実感。

他大学の学生と先生と共に
単管の組み立て

2023.6 第3回

大きさも形もバラバラな古材を
上手く組み合わせることの難しさ。
古材の再利用の大変さ。

2023.7 第4回

今年度のヤマラボ参加学生と
ともに作業。初めての経験を
する学生が多く、たくさんの
学びを与えることができた。

2023.7 第5回

柵の施工開始。
4m程ある細長い木材そのままを活かす作り方に。

202